



氏名、団体名：

木村友・吉田柚凧・長内由佳・皆川理咲子

学校名：

神田外語大学

アイデアタイトル：

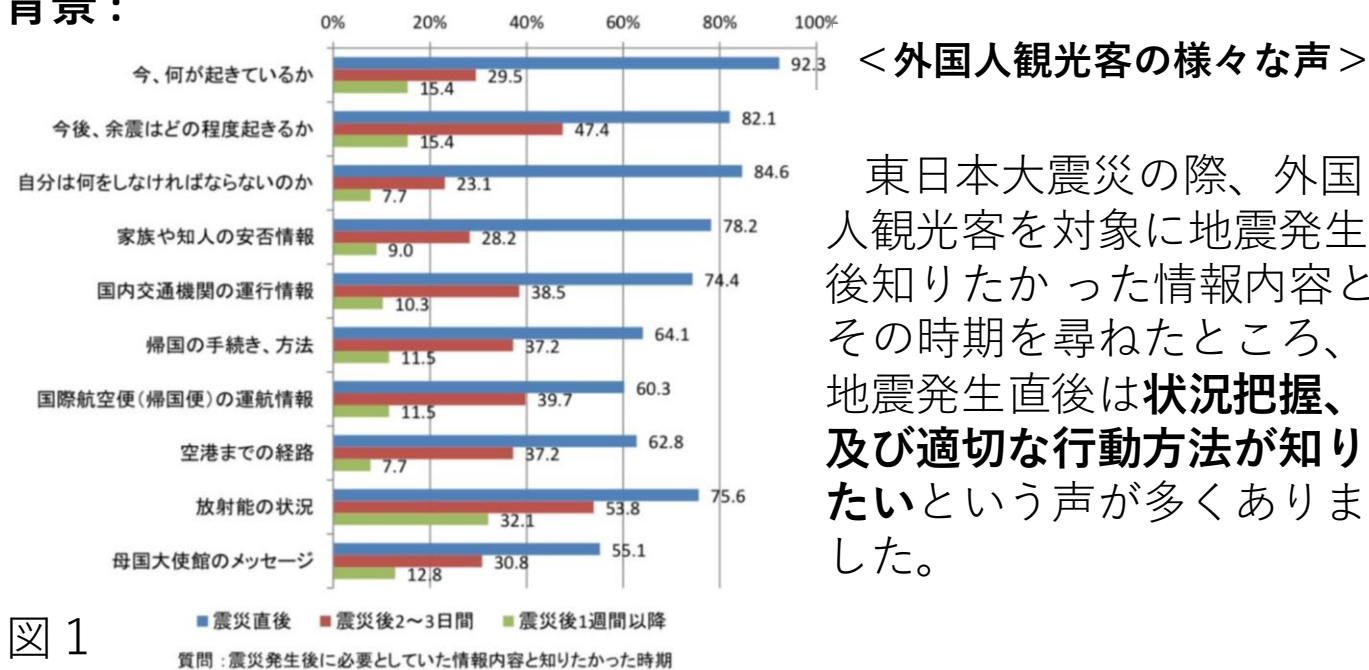
## ～Help Each Other～ ヘルイチ



解決したい社会課題とその理由：

社会課題：地震災害時の外国人観光客に対する情報提供と避難支援の不備  
理由：日本人と外国人観光客が助け合い、協力する機会を生み出すことで、地震災害時に生じ、増幅する不安や困難を解消し、迅速かつ安全な避難と被害を防ぐ環境が必要であると考えたため。

背景：



解決案：

地震災害時、外国人観光客は言語の壁や防災システムへの理解不足から、情報不足や迅速な避難行動が難しいという課題に直面します。このため、避難の遅れや被害拡大のリスクが高まると考えられます。また、図1より外国人観光客は地震発生時に状況把握、及び適切な行動方法を求めていることがわかります。地震発生時にいち早く情報を得て身の安全を確保するためには、**日本人が地震に対して持っている実践的な知識や感覚を身に着ける**ことが最適です。加えて、近年は個人や自己責任が重視される社会傾向であり、この影響を受けた防災アプリが多く見られますが、私たちは地震災害の時こそ、**様々な人が助け合う・協力し合う**ことが命を救う鍵になると信じています。

そこで、実践型地震災害アプリケーション『ヘルイチ』を提案します。ヘルイチはそれらの観点から課題を解決することで、平和へ導くアイデアになると考えます。ヘルイチとはHelp Each Otherの略のことであり、「**言語や文化に囚われない助け合いができるように**」という意味が込められています。

したがって、このアプリのコンセプトは・・・

<全体>  
**きっかけは  
スマホから**

<フェーズ0>  
**実践的知識と  
感覚を**

<フェーズ1>  
**シンプル**

<フェーズ2>  
**助け合いと協力**

地震災害では、状況に応じて被災者が必要とする支援が変わることが考えられます。そこで、想定される状況を大きく3パターンに分け、適切な準備や対応をしていくために**アプリ自体を3つのフェーズに分割**しました。これにより、各フェーズの機能がシンプルになり、迅速な助け合いや協力が実現できます。2枚目のスライドでは、アプリの内容について説明します。

# 「スマートフォンを活用した平和へ導くアイデアは？」



アイデアの詳細：

## 🟦 フェーズ0 (通常時)



アプリをダウンロードした際に地震が起きていることを想定して、**最初に地震の有無をユーザーに訊ねます。**

外国人観光客向けのアプリのため、初期設定は英語にしました。

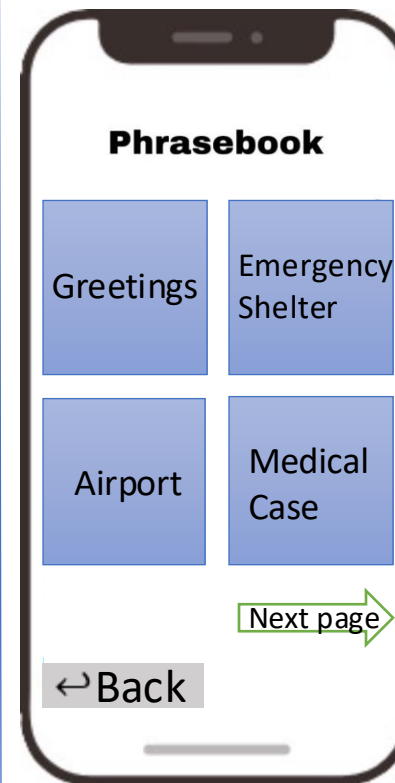
## 🟡 フェーズ1 (地震発生直後)



位置情報と気象庁が出している地震情報を元に自動的にフェーズ1に移行します。そして、このスマホ画面を近くの日本人に見せることにより、**外国人観光客が日本人と手を取り合い、いち早く安全な場所に避難することができます。**

また、多くの人に分かりやすく伝えるためにピクトグラムと日本語音声を採用しました。

## 🟢 フェーズ2 (避難場所生活)

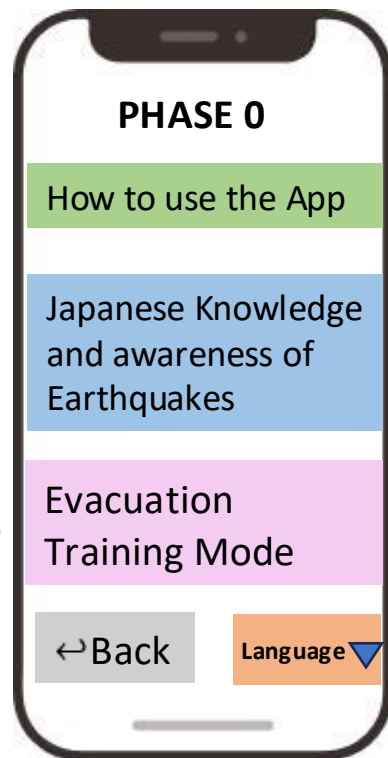


### ★ 様々な場面で使える便利フレーズ

様々な場面で使える日本語をカテゴリーごとに分けました。例えば、Airportのカテゴリーでは「空港へどのように行きますか？ (How can I get to the airport?)」などがあります。これにより、日本人とのコミュニケーションを手助けします。

アプリの使い方を学ぶことができます。

避難訓練モードは、実際に地震が発生した時のようにフェーズ1・フェーズ2を使用することができます。



津波の動画や地震発生時のアラートの音を紹介することで、基本的知識よりも日本人が持っている実践的知識や感覚を学ぶことができます。

### ★ 有名な日本の遊びを知る

右のイメージのように指スマやあっちむいてホイなど日本の簡単な遊びを紹介することで日本人との距離を縮める機会を増やします。

### ★ できることリスト

質問形式かつ自由記述欄も設け、できることリストを作成します。避難所での協力や助け合いの機会を提供し、**外国人観光客が避難所での繋がりを広げるための手助けをします。**

